



収穫に集まった地区の有志13人と再春館製菓所の社員

— 大見区と再春館製菓所がコラボレーション —
不知火菊で耕作放棄地を再生・活性化

11/24 不知火町大見区の畑で地区の有志13人が集まり、3月に同区と再春館製菓所が耕作放棄地に植え付けた不知火菊1,500株の収穫を行いました。大見区の北園直二区長(63)は「不知火菊の栽培のこつが分かったので、これからは作付面積を増やし大規模生産に挑戦していきたい。」と意気込んでいました。



隅々まで三角西港のゴミを拾う児童たち

— 三角小児童が清掃活動 —
ふるさとの名所をきれいに

11/14 三角小の児童や保護者ら約200人が三角西港や若宮海水浴場などで清掃活動を行いました。これは、ふるさとへの愛着や自然を守る意識を大切にしておらうと同小PTAが企画したもの。母親と参加した林莉那さん(6年)は「世界文化遺産の三角西港をみんなで掃除して、きれいになってうれしい。」と笑顔を見せました。



1,000発の花火がコロナに沈む街を明るく照らしました

— 松橋町ふるさと祭り実行委員会がサプライズ —
コロナ収束を願い花火が夜空を染める

11/6 松橋町で「サプライズ花火」が打ち上げられ、秋の夜空を色鮮やかに彩りました。これは、医療従事者への感謝と市民への応援の思いを込め、松橋町ふるさと祭り実行委員会が企画したもの。音に気付いた市民らは、間近に上がる花火に「きれい」「大きい」などと驚きながらもスマートフォンで撮影するなど楽しんでいました。



三角西港でスナメリを見つけた児童たち

— 豊福小宇城市内社会科見学 —
豊福小3年生が宇城市を満喫

11/5 豊福小(中村道恵校長)の3年生66人が市内を巡る3コースに分かれ、社会科見学を行いました。西港排水路のコースに参加した山本大晟さんは「買い物ではいろんなものがあり、選ぶのに迷いました。小川鰻を作るのはとても難しかったです。一番心に残ったことはスナメリを見れたことです。」とうれしそうに話しました。



一つ一つを真剣に審査

— JA熊本うき初のメロン品評会 —
初優勝は上野博文さんと前田真利さん

11/26 市特産のアールスメロンの生産技術を競う品評会がJA熊本うき(丸田博雄組合長)本所で初めて開催されました。生産者自慢のアールスメロン18玉が出品され、形や大きさ、編み目の美しさなどを厳正に審査。優勝には、緑肉の部で小川町の上野博文さん(53)、赤肉の部で松橋町の前田真利さん(51)が選ばれました。



(左から)入選した奥村秀信さん 光永千里さん 畑野泰人さん

— 第47回熊本県い業大会 —
畑野泰人さんが優等賞受賞

11/24 JA熊本うき(丸田博雄組合長)い草生産部会が市役所を訪れ、守田憲史市長に県い業大会での受賞を報告しました。県内から233点が出品され、宇城管内からは、い草の部に13点、い製品(畳表)の部に5点が出品。小川町の畑野泰人さん(52)が、い製品の部で優等賞(農林水産省農産局長賞)を受賞したほか、6人が入選を果たしました。



川口会長(左)が岩見部長にピカピカの楽器を手渡しました

— 肥後小川ライオンズクラブが地元へ寄付 —
地域と共に40年 続く奉仕活動

11/10 肥後小川ライオンズクラブ(川口幸雄会長)がクラブ設立40周年を記念し小川中(井手正直校長)の吹奏楽部に楽器(テナーサックス)を寄付しました。受け取った吹奏楽部長の岩見咲里さん(3年)は「今まで使っていた楽器はとても古く修理を重ねていました。新しい楽器を頂き本当にうれしいです。」と喜びを語りました。



地元の果物を使ったパフェ、からあげなどの屋台がずらり

— 「まっちゃん夜市」初開催 —
松合の町並みを生かした町おこし

11/6 不知火町松合の野村和矢さん(34)ら若手有志がまっちゃんふれあい公園で「まっちゃん夜市」を開きました。新型コロナの感染拡大防止の観点から、地域住民100人に限定し初開催。企画した(株)on the soilの代表内山貴博さん(39)は「次回は春頃を予定し、年に2・3回の開催を目標に周知を図っていきたいです。」と話していました。